弘前城天守は
石垣改修に伴う
曳屋工事により
77.6メートル
移動しました！

# 参画だより

No.64
2018.3.31
弘前市民参画センター

弘前市マスコットキャラクター『たか丸くん』

PICK UP！

## 男女共同参画の視点で読む 世界の格言・名言

人の生き方を一番よくあらわすのは、
言葉ではありません。
それはその人の選択なのです。
私たちの選択とは、つまるところ、
私たちの責任なのです。

エレノア・ルーズベルト

弘前市民参画センター事業紹介「平成29年度第２回ひとにやさしい社会推進セミナー」
「子育てサポートシステム『さんかくネット』サポーター研修会」　Ｐ２
「hirosaki smart project 女性活躍推進異業種交流会」
「弘前市女性活躍推進企業紹介」　Ｐ３
まなぼ「生涯『理想選挙』にこだわり続けた人」　Ｐ４
おとこの気持ち聞いちゃいました「好きなことを仕事にしてしまった人」　Ｐ５
さんかくひとりごと「避けて通れない介護のはなし」　Ｐ５
男女（ひと）・団体（グループ）紹介「未来を切り拓くきっかけの場所として」　Ｐ６
利用者・利用団体紹介「弘前市ソフトボール協会」ほか　Ｐ７
本の紹介「何を怖れる～フェミニズムを生きた女たち～」　Ｐ８
センターからのお知らせ　Ｐ８

## 平成29年度第2回ひとにやさしい社会推進セミナー

12月20日、ひとにやさしい社会推進セミナーをヒロロで開催しました。今回のセミナーは、性の違いに関係なく、誰もが幸せに生きることができる社会・地域を目指して活動している「スクランブルエッグ」代表の創さんが「聞いてみよう、いろんな性別、いろんな生き方」と題し講演しました。

創さんはセクシュアリティについて、一人ひとりが自然に持っている性のあり方で、体の性、心の性、ジェンダー、好きになる性の4つの要素の組み合わせであることや、それぞれの要素が男か女だけでは表現しきれない多様なもので、人の数だけ性があると解説しました。

性別違和のない異性愛の男女と異なるセクシュアリティの人たちは、性的マイノリティ（性的少数者、LGBT）と呼ばれ、電通が実施した調査では、全体の7・6%が該当するという結果が出たと紹介。「この結果は、全国に対する東北6県の人口割合に相当する。決して特別な人たちではなく、ごく身近な存在。いろいろな人が同じ社会で生きている」と述べました。

多様な性について語る創さんの話に聞き入る参加者

創さんは家庭や学校、社会の中で性的マイノリティが生きづらさを感じることは多いと話し、その背景には、情報と理解の不足から偏見や誤解が根強く、当事者が自己肯定感を育みづらい状況があり教育や研修を通じて正しい情報にふれることの重要性を指摘しました。自身も以前、周りと違うことは悪いことだと思っていたと明かし、「周りと違うことが悪いのではない。誰もが自分らしく生きるために一人ひとりが多様な性について知り、意識して行動していくことが大切」と話しました。同性カップルには法的な保障がないこと、自身が介護を受ける場合の不安など問題点も挙げた創さん。参加者は「知る機会があってよかった」など感想を寄せ、理解を深めていました。

## 「さんかくネット」子育てサポーター研修会

子どもたちへの支援内容を語る福原さん

11月9日、弘前市の子育てサポートシステム「さんかくネット」の子育てサポーター研修会を市民参画センターで実施しました。

今回の研修会は、自閉症スペクトラムの子どもへの対応について、社会福祉法人七峰会　児童発達支援センター「はぁと」児童発達管理責任者の福原由歌理さんが講演しました。

福原さんの職場では心身に障がいがあり、市からの受給者証を持つ未就学児の療育、小学生から高校生までのデイサービスなどを行い子どもたちの支援をしています。

福原さんは自閉症は発達の違いであり脳のタイプの違いと話し、コミュニケーションや社会関係、行動や記憶、感覚、全体より細部に注目するなど様々な特性があると説明しました。表面上目にするかんしゃくを起こす、叫ぶ、その場から居なくなる、パニックになるという行動の背景には、子どもの特性と感情の状況に対して、環境や対応が相互反応して起こると話しました。「行動の直前に起こったこと、何をしていたか、子どもにはどんな特性があったかをよく観察して対応するといい」とアドバイスしました。

効果的な子どもの接し方、かかわり方は、褒める・感謝する・認めることと紹介。「具体的に行動を褒めることで子どものモチベーションが上がる。重要なことは生きていてよかったという存在価値と自己肯定感を持ってもらうこと。小さなときから育むことは、障がいの有無にかかわらず大人になったときに違うはず」と工夫次第で生きにくさが解消できると語りました。

弘前市委託事業の「ひろさき子どもの発達サポート（はぁと・弘前大清水学園受託）」では、発達が少し気になる段階から対応し、ヒロロなどでも出張療育を実施。登録も契約もなく気軽に利用できる（要事前電話）と案内。

子育てサポーターは、子どもの育み方を熱心に学んでいました。

## hirosaki smart project
## 女性活躍推進異業種交流会

平成28年度から、弘前市と損保ジャパン日本興亜が事務局となり、市内の女性のネットワーク形成を目的とし「hirosaki smart project 女性活躍推進異業種交流会」を開催しています。初年度は、青森銀行、みちのく銀行が幹事を務め、テーマを決め４回開催しました。

２年目の今年度は、東奥信用金庫、弘前大学、ラグノオささき、樋川自動車の４社の皆さんに交流会を企画・運営していただき、合計約１９０名の方が参加しました。

第１回は「女性労働者の現状と課題」をテーマとした講演会、（東奥信用金庫担当）、第２回・第３回はそれぞれ「女性活躍・ダイバーシティ推進とunconscious bias（アンコンシャスバイアス：無意識の偏見）」（弘前大学担当）、「ラグノオささきの女性社員に着目した企業風土の紹介～お菓子とともに～」（ラグノオささき担当）をテーマとしたワークショップ、第４回は「接客の最終兵器『笑顔』に挑む！」（樋川自動車担当）をテーマとした講演会が実施されました。

どの回も企画・運営する女性の皆さんの様々な工夫が凝らされ、参加者からは「様々な業種の方と一同に会する機会となり、励みになった」「以前産休で上司と戦ったことがあり悩んだが、間違っていないと思えた」「参加企業・参加者が昨年度よりも増え、弘前の女性の意識の高さに感心した」などの声があがりました。

平成28年度ワールドカフェ方式で行われたディスカッションのようす（お菓子を食べながら和やかに意見交換）

平成29年度第１回講演会。女性が職場で継続して活躍するための課題や新しい取り組みを学ぶ参加者

## ★弘前市女性活躍推進企業紹介★

平成29年１月にスタートした「弘前市人口減少対策に係る企業認定制度（女性活躍推進企業）」ですが、平成30年２月20日時点で36社が認定されました。弘前市は、女性の雇用環境を改善し女性の個性と能力が十分に発揮できる社会の実現に向けて、女性従業員の活躍推進に積極的に取り組む企業等を「弘前市女性活躍推進企業」として認定しています。

認定マーク

### 今号も、認定された企業の中から６社の取組内容をご紹介します！

| 認定番号 | 企業名 | 取組内容（一部） |
|---|---|---|
| 第31号 | 株式会社<br>大伸管工業所 | 社内会議におけるワーク・ライフ・バランスについての周知や、専門家を講師としたハラスメントに関する研修などを行っており、社員が働きやすい職場環境づくりに積極的に取り組んでいる。 |
| 第32号 | 阿保設備工業株式会社 | 女性が少ない職種だが、男女平等に活躍できるよう、資格試験の受験料や研修・教材費用を負担し、新たな知識や資格取得を目指すための支援を行っている。 |
| 第33号 | 株式会社　村上組 | 自社HPで「女性社員の現場パトロール」や「女性社員から見た建設現場」のページを設け、女性の目線で見た気づき、危険箇所や衛生面上の問題などを意見として紹介し、女性が活躍している職場であることをPRしている。 |
| 第34号 | 丸勘建設株式会社 | セクシュアルハラスメントとパワーハラスメントの相談窓口を設置している。<br>「女性リーダーを育成するための研修を実施する」等を盛り込んだ「女性の活躍推進に関する目標」を定めている。 |
| 第35号 | 株式会社　前山組 | 女性の資格取得状況等を紹介して女性が働きやすい企業であることをPRしている。<br>育児休業や介護休業の取得の有無に関わらず、スキルアップのための講習や研修を希望者へ受けさせている。 |
| 第36号 | 株式会社　南建設 | 能力に応じて、非正規雇用から正規雇用となった女性社員がいる。<br>女性のスキルアップのための研修に社員を派遣している。 |

弘前市女性活躍推進企業（第31号～第36号）

# まなぼ

このページは男女共同参画についての学びを深めようということから企画されているページです。

**市川房枝～明治26年（1893年）生まれ。明治、大正、昭和にわたって女性参政権の獲得・女性の地位向上のために闘い抜いた人。続いてくる人々へ自ら語り残した「私の歩いてきた道」を記録した映画に、私たちが学ぶことがたくさんある。市川房枝さんが語った人生、生き方にふれてみた。**
**（記録映画「八十七歳の青春～市川房枝生涯を語る」から）**

## ～生涯「理想選挙」にこだわり続けた人～

◎生い立ちに活動の原点が（母のなげきが出発点）

長い人生の中で一番記憶に残っているのは母のおもかげ。無学で文字の読めない人だったが忍耐強く理性的で、素晴らしく記憶力のいい人だった。暴君であった父から殴られているのをたびたび目撃した。母は「お前たちのお父さんはかんしゃく持ちで無理ばかり言うから何度里へ帰ろうと思ったかしれない。でも、おまえたちが可愛いから我慢している。女に生まれたのが因果だからしょうがない」と言っていた。どうして女に生まれたから我慢しなければいけないのか理解できず納得がいかなかった。この母のなげきが人生の出発点になっている。

◎初めての仕事（大正デモクラシーに心よせる）

女が続けられる仕事をということで師範学校に入学したが、在学中は「良妻賢母」主義の教育に不満を持ち授業ボイコットして校長に抗議したこともある。大正２年（1913年）尋常高等小学校に教員として就任した頃は、男先生との給料差があったにもかかわらず、客があればお茶を出す。教室の白いカーテンを洗濯するのは女先生の仕事と男女の差別を感じたものだ。大正デモクラシーの時代に入った時期で、学校が休みになると講習会を探しては勉強に飛び回った。満足に食事をしなかったことで体調を崩し闘病のため休職することになる。

◎新婦人協会

大正７年（1918年）上京。大正８年、平塚らいてうに婦人の地位向上のための運動を手伝ってほしいと誘われ、11月に２人で「新婦人協会」を創立。４ヵ月後に発会式。その後の運動に没頭したためか疲れが出てしまい、休養と勉強のために渡米することを思い立った。

◎アメリカ婦人運動との出会い

大正10年（1921年）渡米。船旅でシアトルに着き、シアトル、シカゴ、ニューヨーク、ワシントンと働きながら学校の実状や婦人運動、労働組合運動を見聞し、すでに婦人議員となっていた女性の演説を聞いた。首都ワシントンでは婦人党本部に泊まって米議会、各婦人団体を訪問した。米国で学んだことは多く、帰国したら労働組合運動は男性に任せて、婦人にしかできない婦人運動をするように勧められた。大正13年１月に帰国。帰国後は婦人問題、婦選運動に取り組むことになる。

◎婦人参政権獲得

昭和20年８月15日の終戦の勅書は、予期していたものの涙が出た。降伏の条件である「ポツダム宣言」の項目を見たときに「いよいよ婦選が与えられる時が来た」と思った。昭和21年４月10日の総選挙では婦人が初めて投票し39名の婦人議員が当選した。終戦後数年間で婦人の人権尊重、男女同権を含む憲法をはじめとして法律の改定改廃は当の婦人たちが戸惑うほどのものだった。これらは米国よりもはるかに進歩した内容だったことは確かである。

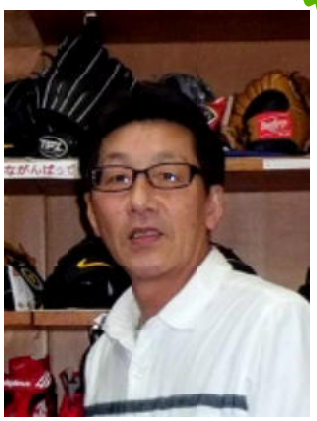
◎参議院議員として

昭和28年（1953年）の第３回参議院議員通常選挙に東京地方区から立候補して当選。４期目をめざした第９回参議院議員通常選挙に落選するが、第10回参議院議員通常選挙で全国区から立候補して当選する。昭和55年（1980年）の第12回選挙では87才という高齢にもかかわらず全国区でトップ当選を果たす。「出たい人より出したい人」をと、有権者に押し出される「理想選挙」を自ら実践する。組織に頼らず個人的な支援者が手弁当で選挙運動を行う選挙スタイルを生涯変えなかった。

◎「まだやりたいことがあるのでもう少し生かしてください」と言っていた彼女に心筋梗塞の発作が。1981年２月11日帰らぬ人となる。彼女を見送る女性たちの涙が印象的だった。

## おとこの気持ち聞いちゃいました

Q．男女共同参画ということばを知っていますか？
　A．知っている、詳しく説明はできないけど。
Q．家事を手伝っていますか？
　A．食器洗い、それもしないでと言われている。
Q．女性のトップをどう思いますか？
　A．前の防衛大臣のように優柔不断では困る。異業種交流で出会った女性社長は発想が豊かだった…人は適材適所だと思う。
Q．クロスカントリーを教えていますが、男女ではどんな気遣いがありますか？
　A．技術レベルで教えているので気遣いは同じ。
Q．仕事のストレス解消法は？
　A．仕事を終え、近所の温泉へ行き、帰ってテレビを見ながら晩酌。
Q．人生の危機のときパートナーに何を求め、何を考えましたか？
　A．自分では何も求めない。去年、大病をしてからは不安のない生活を約束しようと思った。
Q．今までの人生でカッコイイと思えた女性はいましたか？
　A．２歳上の姉が今も現役で仕事をしている。理数系で言葉が的確で説得力がある人。
Q．これからのカップルに何を望みますか？
　A．共に働き、共に子育て、それで良い。



60代・経営者・既婚

インタビューを終えて

**～好きなことを仕事にしてしまった人～**

22歳で結婚。サラリーマンから28歳で起業。創業から37年間、妻と二人三脚でスポーツ店を経営してきた。何年たっても体型が変わらないのは野球、ゴルフ、バトミントン、スキーと今でも運動しているからなのでしょう。仕事が終わったら一人行動。それが夫婦長続きの秘訣のようだ。　　梅

## ～避けて通れない介護のはなし～

### さんかくひとりごと

**☆最近の出来事～介護はどのようにだれが？**

90代夫婦と70代長男、60代長男妻、長男夫婦の30代娘の一家に突然介護の問題が発生。90代にしては元気に過ごしてきたおじいちゃんだったが急激な体力低下に伴い入院することに。退院に向けて今後の生活を考えたときに家族の気持ちが…。

おじいちゃんはもう病院はいやだ。妻であるおばあちゃんは帰ってきてほしくない。長男妻はリュウマチ、腰痛をかかえ、身体に関する介護を引き受けるには健康状態に問題がある。長男夫婦の娘は介護のすべてが母の肩にのしかかってくるのを懸念する。

ここで大きな問題になったのがキーパーソンとなる長男の行動。定年後で時間には余裕がある。この頃は親の介護を担う男性たちも増えているが、介護は女の仕事という先入観がある。この家の大黒柱だという自負はあるものの責任感がイマイチ、自分勝手で人の話をきちんと聞けないときている。今後のことについて家族に相談もなく自分の思いで見切り発車。妻や娘が口を出そうものなら一喝。言葉の暴力と言っても過言ではない言葉が飛んでくるという。

その言葉で妻や娘が傷ついているとは夢にも思っていない。妻や娘とはよい関係が築かれていないため今後が心配される。他人事ではない話が起こっている。家族との関係をおおいに考えさせられた。

いまどきお目にかかることができないような考えを持った男性の話に驚いてしまった。とてもひとつの職業について定年退職を迎えた人とは思えない。他人との関係はうまくできていたのだろうか？自分の年齢を考えたときに今後のことが心配にならないのだろうか？自分勝手な思い込みが命取りになるかも…自分の家族が自分と同じ思いだとは限らないのだから。

# ～未来を切り拓くきっかけの場所として～

コラーニングスペースＨＬＳ弘前
辻　正太さん

## 体育教師をやめて、埼玉から弘前に移住

２０１６年７月に移住してきました。出身は弘前と同じ桜の名所、奈良県吉野です。東京の大学を卒業後11年間、体育教師として熱い毎日を送っていましたが、世の中が目まぐるしく変化し、予測不能な社会が訪れる中で、学校の中だけでの教育に限界を感じ始めました。「教える・教えられる」という関係では、21世紀を生き抜く人材は育てられないと。多様な人々が関わり、大人も子供も学びあえる新しい教育のかたちを模索して、学校を飛び出すことにしました。

妻が鰺ヶ沢町出身だったこともあり、転職先の会社の青森拠点を立ち上げる命を受け、弘前にやってきました。弘前にはほぼ知り合いがいなかったので、仕事でご一緒した弘前公園の桜守の皆さんを起点に、ひたすら地元の方々に会ってお話を聞き続けました。その中で、弘前には様々な市民活動に取り組んでおられる方々が、目に見えて繋がれる場があまりないというお話をお伺いしました。そんな「場」があれば、もっと大きなうねりが起きるのではないかという声に後押しされ、皆が集まれる場を作ることにしました。

## コラーニングスペースＨＬＳ弘前を設立

２０１７年４月「地域や世代を超えて、多様な人々が学びあい、ともに未来を切り拓く」をコンセプトに、コラーニングスペースＨＬＳ弘前を設立しました。ＨＬＳはHeart Lighting Stationの頭文字です。イベントやセミナーを中心に、様々なバックグラウンドを持った方が集まり、対話し、協力しながら新しい挑戦を始める、そんな循環が生まれ始めています。

2017年４月
「Heart Lighting Station弘前」の
オープニングに集ったみなさんと

普段は大学生がラーニングスペースとして、また社会人がワークスペースとして利用してくださっています。たまたま居合わせた人が繋がって、新しいプロジェクトを始めることもあります。利用者の中で、意外と多いのが主婦の方です。それぞれ仕事や育児を抱えつつも、自分の得意なことを生かして活動をされています。人生百年といわれる時代に、男女問わず、こういった二足目のわらじを履く人を増やしたいと考えています。

とはいえ、いきなり自分で起業したり、お店を開いたりというのは簡単ではありません。そんな時に、ＨＬＳを使って何か始めてみる、たとえば週末限定のショップを開いてみるのもいいと思います。昨年夏にはＨＬＳのイベントに参加したことをきっかけに、自ら月１回のキャンドルバーを開くようになった主婦の方もいらっしゃいました。

学校は「error and learn～失敗して学ぶ～」場だといわれます。ＨＬＳも皆さんが「安全に失敗できる場所」でありたいと願っています。多くの人々の失敗の積み重ねが知見となって溜まっていき、新しいことを始める人たちにとっての教科書になれば最高です。

今はどんどんイベントを開いて、意図的に人が集まるタイミングを作っています。正直、集客はめちゃくちゃ頑張っています（笑）。でもいずれは、毎日勝手に何かが起きている、そんな場になってほしいですし、弘前にそういう場がたくさんできれば、街はもっと元気になると信じています。ともに小さな一歩を踏み出してみたい方は、ぜひふらっとお立ち寄りください。

仕事中の辻さん

ねぷた祭観覧
パーティーのようす

コラーニングスペースＨＬＳ弘前
弘前市土手町１３３
西谷ビル１Ｆ

弘前市民参画センター利用団体紹介

# 弘前市ソフトボール協会

## 将来の日本代表選手を育成

当協会は、昭和63年に創立以来、地域社会におけるソフトボール競技の普及・振興の活動を続けてきました。シーズン中の弘前地区中学校の各種大会、市スポレク祭などの運営はもとより、オフシーズンにも小・中学生を対象としたソフトボール教室の開催や「陸奥新報社杯女子ソフトボール大会」「弘前ナイターソフトボール大会」「斎藤春香旗弘前地区中学校ソフトボール大会」等ほぼ一年中活動しています。また、市体育協会と連携した青森県民体育大会ソフトボール競技でも四連覇を果たす実績を残しています。

斎藤春香さんによる
ソフトボール教室

２００８年、北京オリンピック金メダル監督の斎藤春香さんが、市職員となり、運動公園野球場が「はるか夢球場」となってからは、当協会も国内外の大きな大会運営に携わるようになりました。例えば、昨年10月、三度目となった「日本女子ソフトボールリーグ１部青森大会」の開催や当市初の国際大会となった昨年６月の「第６回東アジアカップソフトボール大会」等があげられます。

特に、後者の大会では、レジェンド上野由岐子投手や女イチローの異名を持つ山田恵理選手らが日本代表として活躍、一流のプレーを披露し、多くの観客を魅了しました。

さらに、市体育協会と共にオリンピック選手の講師による「トップアスリート育成事業」も実施。ここから聖愛高校出身で現在U19日本代表で活躍中の須藤志歩さんを輩出しています。彼女は、春香さんに続く日本代表になる可能性を持っています。今年も「台湾代表チーム」や実業団チームの合宿を予定しています。一度、球場に足を運んでみませんか。当協会は、大会プログラム等の印刷で参画センターにお世話になっています。職員皆様の丁寧な対応にはいつも感謝しています。

**弘前市ソフトボール協会**
**会長　須郷紘輔**

一流選手による
ソフトボールクリニック教室

写真・陸奥新報社提供

## センター利用者に突撃インタビュー

### ７０代・美男美女

**◆センターの利用目的と利用頻度は？**

「あおもり県民カレッジ中南学友会」の会で利用しています。月１回、月初めの１日を定例会の日として集まっています。主な活動は県民カレッジ主催の世界の名画鑑賞会や講演会、総会などの企画運営、会議、打ち合わせのほかに必要があれば随時集まることもあります。構成役員は11名の男女です。

**◆センターを利用してみた感想をお聞かせください。**

まず、施設がとてもきれいです。掃除が行き届いていて気持ちがいいですね。また職員の朝のあいさつがさわやかに迎え入れてくれるようで気持ちがいいです。活動室や印刷機の利用料金が安いことと、職員が使い方をやさしく丁寧に教えてくれて助かっています。企画運営当日に機材の諸準備をしてくれて助かっています。あと、街中にあり、交通の便もよいので使いやすさがあります。市外から来ている人にもうらやましがられています。

**◆センターに要望はありますか？**

特にはないですが、強いていえば利用人数に対して駐車場が少ないことかな。

**◆「男女共同参画」についての感想をお聞かせください。**

「共同参画」のことばがわかりにくい感じです。意味はわかりますが、イメージとして堅い感じがします。みなさんに親しみやすく伝わることばが使えたらいいですね。今後の課題として検討していけたらいいですね。

**◆「今、一番」の楽しみは何でしょうか？**

友だちとおしゃべりしたり、食べたりなど仲間が一緒で楽しいです。また、会の企画や運営を仲間といっしょにできる楽しさが長生きの秘訣だと思います。楽しいですよ！

とっても和やかな雰囲気でみなさまがインタビューにそれぞれ応えてくださいました。会議中でも快くお受けしていただいて感謝しております。素敵に年齢を重ねていらしていて、わたしもそうなりたいなぁと思いました。本当にありがとうございました。　by　のん

## 市民参画センターからのお知らせ

### “みんなであずましいまちづくり”

### 平成30年度
### 市民参加型まちづくり１%システム

地域のことをよく知っている市民のみなさん(町会、NPO法人、ボランティア団体など）のまちづくり活動を支援しています。これまで、160を超える団体の方々の「市民力」で、魅力あるまちづくりがひろまっています。みなさんのアイデアを生かした事業の提案をお待ちしています。

**【募集期間】**

**３回あります。※募集時期によって、事業実施期間が違います。**

**１次募集**　（終了）
**２次募集期間**　平成30年４月２日(月)～４月27日(金)
**事業実施期間**　７月１日～翌年３月31日
**３次募集期間**　平成30年７月２日(月)～７月31日(火)
**事業実施期間**　10月１日～翌年３月31日

**【補助金額】**

**※上限額50万円。対象経費の90%以内の額です。**

**【まちづくり１%システム審査委員会が審査します】**

応募書類と公開プレゼンテーションの内容をもとに、総合的に行います。ただし、補助金の申請金額が20万円以下の事業は、公開プレゼンテーションによる事業説明を申請団体の任意とします。事業説明を希望しない場合、市の担当者が事業概要を説明し、審査委員と申請団体で質疑応答を行います。

市のホームページから様式や申請ガイドブックがダウンロードできます。また、制度内容を詳しく知りたい、申請内容を相談したいかたは、下記問い合わせ先までいつでもご連絡ください。

**【問い合わせ先】**

弘前市役所　市民協働政策課　市民協働係
☎　40−7108　FAX　35-7956
Ｅメール　shiminkyoudou@city.hirosaki.lg.jp

## 本の紹介

**タイトル**

「何を怖れる
～フェミニズムを
生きた女たち～」

編　者　松井　久子
発行所　岩波書店

**～日本を代表するフェミニストたちの貴重な伝言～**

「何を怖れる」～フェミニズムを生きた女たち～というドキュメンタリー映画が弘前で上映された時に求めた本である。その映画には故人を含めて15名の女性たちが出演していた。映画監督である松井さんが映画をつくるために取材をした時のインタビューをもとに、12人のフェミニストたちの貴重な伝言を収めたのがこの本である。

日本のウーマン・リブ活動に飛び込んだ人たち。男性優位社会の中でキャリアを築いてきた人たち。戦争、軍隊、暴力が女性たちに何をもたらすのかを問い続けてきた人たち。雑誌、書店、女性センター…それぞれのかたちで女性たちのネットワークを築き、フェミニズムを実践してきた人たち。そうそうたるメンバーである。今だから言えるということもあったのだろう。

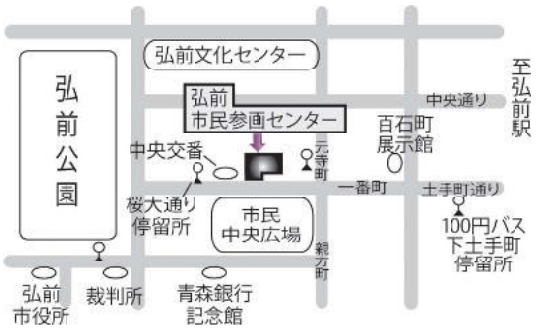
「どの人の言葉も老いてなおみずみずしいエネルギーにあふれ、女も、男も、性別を問わず耳を傾けるべき言葉が詰まっている」と松井さんは記している。彼女たちの人生と仕事が社会に果たした役割の大きさを多くの人に知ってもらいたいと。

私自身も「この人たちは特別な女性たち」という思いが強く、「フェミニスト」と呼ばれる人たちの話すことは難しいという先入観を持っていたが、女たちがつながって個人の問題を常に社会全体の問題として向き合っていくことはとても大切なことだと思うようになった。私は映画を観てからこの本を読んだが、本を読んだ後に映画を観るのもよしと思った。興味を持った人たちの映像はより印象に残ったであろうにという思いで…。　by　komori

## 編 集 後 記

今年は冷えこみが厳しかったですね。我が家は風呂場が一番寒いところにあるので、日中でもシャワーのホースが凍っていたりして…毎晩気が気でなかったです（涙、涙、涙）。雪かきに体力が奪われることはあまりなかったですが、神経はすり減りました…どうせならお腹のお肉もすり減ってほしかった…（とほほー）。　R

【参画だよりに関するご意見、ご感想をお寄せください】


## 弘前市民参画センター

〒036-8355 弘前市大字元寺町1番地13
TEL 0172-31-2500
FAX 0172-36-1822
開館時間　9:00～22:00
休館日　12月28日～１月３日
http://www.city.hirosaki.aomori.jp/sankaku/
（市民文化スポーツ部　市民協働政策課　市民参画センター発行）